KRB-0723 2M1085SAA

Panasonic®

サーキットブレーカ

単3中性線欠相保護付 BBW-400N型

施工説明書
取扱説明書

<対象製品品番はカタログなどでご確認ください>

施工説明書

施工店様へ

●施工には電気工事士の資格が必要です。
●施工前に必ずお読み頂き、確実に配線してください。
●施工完了後、この説明書を必ず取扱者様へお渡しください。

安全上のご注意

ケガや事故防止のため、以下の点は必ず守ってください。

⚠危険

必ず守る

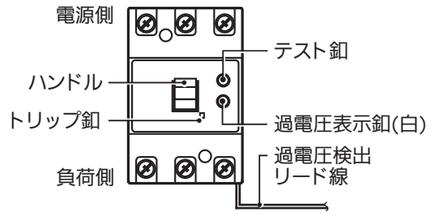
- **施工・点検時には必ず主電源を切る**
  ～電源が入ったままの施工は感電の原因になります～

⚠注意

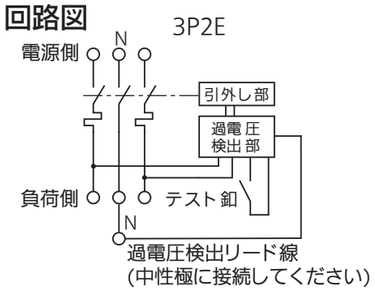
必ず守る

- **端子ネジは標準締付トルクで確実に締付ける**
  ～端子ネジのゆるみは発熱・発火の原因になります～
- **過電圧検出リード線はブレーカ負荷側の中性極に接続する**
  ～接続しないと中性線欠相による、過電圧保護ができません～

■各部のなまえ



■回路図



■施工上のご注意

- 単3回路の中性線を中極に、電圧線(200 V)を両端極に接続してください。
  (単相 3 線専用です。単相2線回路などには使用できません)
- 過電圧検出リード線を延長される場合は、全長2 mまでとしてください。
- 温度・湿度・粉塵・腐食性ガス・振動・衝撃・直射日光など、異常な周囲環境での使用は避けてください。
  ●使用周囲温度:－10 ℃～+60 ℃　●使用相対湿度:45 %～85 %
  (盤内の温度が40 ℃をこえ50 ℃以下の場合80 %以下、50 ℃をこえ60 ℃以下の場合70 %以下の負荷電流率としてください)
- 施工時、機器内部に異物電 線クズや壁材など)が入らないようにしてください。
- ブレーカの動作で2次的な影響を受ける負荷には、警報回路を併用してください。(内線規程)
- 端子ネジは標準締付トルクで確実に締付けてください。
  (接続不良は、発熱・発火の原因や中性線欠相事故による負荷機器の故障の原因になります)

ネジ径	標準締付トルクN·m
M10	14.0～22.0
M12	40.0～50.0

- 結線後、ハンドルをON「入」にしてからテスト釦を押して、動作の確認をしてください。
  (再投入する場合、ハンドルをOFF「切」にしてからON「入」にしてください)

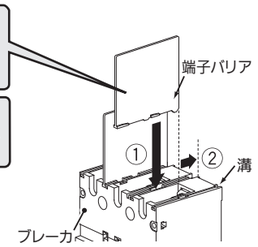
●過電圧検 出リード線 端末コネクタ

適合電線 mm^2	0.75～1.25 (AWG18-16)
適用 圧着工 具	NH11、NH32 ㈱ニチフ

■端子バリアの施工

1.取付け
バリアの端面をブレーカ本体の溝に合わせて、矢印①②の方向に押込んでください。

2.取外し
バリアを矢印②①の反対方向に引き抜いてください。



取扱説明書 (保管用)

取扱者様へ

お買い上げいただき、まことにありがとうございます。
●点検・交換には電気工事士の資格が必要です。
●取扱前に説明書を必ずお読みの上、正しくお使いください。
●この説明書は必ず保管してください。

安全上のご注意

ケガや事故防止のため、以下の点は必ず守ってください。

⚠危険

禁止

- **端子部にはさわらない**
  ～感電の原因になります～

⚠注意

必ず守る

- **点検や修理は電気工事店へご依頼頂き、この説明書を提示する**
  ～不良工 事は感電や火災の 原因になります～
- **電気工事店へ5年に一回程度、端子ネジの増締め依頼をする**
  ～端子ネジのゆるみは発熱・ 発火の 原因になります～

● 単3中性線欠相保護は、過電圧検出リード線の接続位置より電源側の過電圧について保護します。
【中性 線の欠相により過電圧(135 V以上)が発生すると、回路を自動的に遮断します】

■使用上のご注意

- 定期的にテスト 釦を押して、ハンドルが中立 (トリップ) 状態となる 事を確認してください。
  (再投 入する場合、ハンドルをOFF「切」にしてからON「入」にしてください)
- テスト 釦を通常の OFF「切」操作には使用しないでください。
- 線間絶縁測定は端子から電線を外して、電線で行ってください。

■単3中性線欠相保護付ブレーカが動作したときのチェック方法

【繰 返し投入は避けてください】

現象 ● 主幹ブレーカの過電圧表示釦(白)が飛び出さず、ハンドルが中立(トリップ)状態のとき。
● 電流制限器 (リミッター)がある場合、これが「切」のとき。

→ **原因** 電気の使いすぎまたは短絡

●チェック手順

分岐ブレーカがON「入」のままになっている

全体の電気の使いすぎで主幹ブレーカまたは電流制限器がOFF「切」になりました。

使用電力の大きい負荷を「切」にして使用してください。

分岐ブレーカがOFF「切」になっている

OFF「切」状態の分岐ブレーカの回路が短絡しているか、電気の使いすぎと考えられます。その分岐ブレーカはOFF「切」のままで、主幹ブレーカまたは電流制限器をON「入」にしてください。

当該回路の点検を電気工事店に依頼してください。

現象 ● 主幹ブレーカの過電圧表示釦(白)が飛び出して、ハンドルが中立(トリップ)状態のとき。

→ **原因** 過電圧事故発生

● 直ちに電気工事店へ点 検を依頼してください。

【ご相談窓口における個人情報のお取り扱いについて】
パナソニック株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容を録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくときのために発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

施工店　　電　話

パナソニック株式会社
パナソニック エコソリューションズ電路株式会社
〒571-8686　大阪府門真市門真 1048 番地　TEL（代表）06-6908-1131

©Panasonic Corporation 2012

KRB-0723 2M1085SAA